

国語科学習指導計画

平成17年10月27日

授業者 小林朝子

1 単元名 くらべてよもう

2 教材名 じどう車くらべ

3 単元のねらい

自動車の仕事と作りの関係に興味を持って読み、ほかの自動車を説明する文章を書くことができる。三種類の自動車について、仕事と作りの関係を考えながら内容の大体を読むことができる。(読イ) 教材文を参考にして、簡単な組み立てを考えて好きな自動車の仕事と作りを説明する文を書くことができる。(書ウ)

片仮名で書く語を読んだり書いたりする。(言イ)

4 教材について

「じどう車くらべ」はこの時期の児童の興味・関心の対象として代表的なものの一つ、自動車を取りあげた説明文である。入学して初めて出会った説明文は、「いろいろな くちばし」であった。鳥のくちばしの特徴を記したこの文章で、児童は説明されていることがらを正確に読み取ることを学ぶとともに、説明文の基本的なパターンである「問い 答え」と、その文型を学んだ。本教材では、この学習を踏まえて題材に「自動車」を取り上げ、説明の仕方は、「話題・問題提起 問題に対する説明」を、自動車の「しごと」と「つくり」という二つの事柄の因果関係で述べる形をとっている。

この時期の児童の一番好きな題材を取り上げ、主体的な理解・表現活動を促す教材構成である。この教材の学習を通して、児童は、楽しい説明文の読みを体得すると同時に、確かな言語能力を身につけるであろう。

5 児童の実態 1年生34名

・ 研究内容に関わって (系統的な決めだしと日常的な指導)

1年生という入門期の指導は、国語学習の入門だけではなく、学校生活、学習のあり方の入門期と捉えている。その第一歩として、大切に指導していることは、「あいさつ」や「返事」である。人と人がかかわりをもつための「きっかけ言葉」や「反応」を子どもたちにもたせたいと願っている。

そこで、まず1学期から現在までの「話す」「聞く」「書く」などについての習熟の実態を述べたい。

<話す> 返事 いつも元気のよい返事ができることが多い。23人 ほぼできる。10人
声は出ないが大きな口を開ける。 1人

話し方 聞く人の方に体を向けてから話すことができる。 ほぼ全員意識している。

みんなに聞きやすい声で話すことができる。 20人

おわりまではっきり話すことができる。 8人

進んで、手をあげて話すことができる。 ほぼ12人 ときどき17人

あまり5人

すらすら音読ができる。 20人

- <聞く> 手遊びをしないで最後まで話を聞く。 24人
相手に体を向けて、相手を見て話しを聞く。 16人
どんなことがいいたいのかうなずいたり、賛成しながら聞く。 2人
反応(いいかえし) 「同じです。」「拍手」「ありがとう。」
- <書く> 正しく鉛筆が持てる。 18人
正しく持てない子 . . . 親指、中指の位置が違う。
ひらがなの読み書きが正しくできる子 24人
. 書き順を正しく覚えていない。 10人 . 正しく読めない。 2人
- <姿勢> よい姿勢が保てる。 9人 だいたい14人 苦手 11人

これらの「基本的な学習姿勢」が身に付いている児童は、本教材においても、身につけたい力を習得することができるだろう。しかし、定着していない児童については、さまざまなつまづきが予想される。そこで、ねらいに迫れるように個々の実態に応じての助言・指導を考えていきたい。

・ 説明文について

1学期の教材「いろいろなくちばし」では、説明されていることを正しく読み取り、自分でも問いと答えの文を作るという活動をした。どの子もほぼ、問いや答えの文は書いたり、話したりできたが、答えの文の説明(くちばしの使い道、えさ)もできたのは、約半数であった。この教材で、はじめて図書館で鳥の図鑑を見つけるという活動も行ったが、大変興味を持って探すことができた。

「いろいろなくちばし」では、「～です。」「～ます。」「なんのくちばしでしょう。」など基本文型に慣れることができた。さらに、「じどう車くらべ」では、話題・問題提示に対する答えと説明の部分をさらに進め、説明が、仕事とそのためのお仕事になっているという二つの要素で構成されていることに着目させ学習させたい。

6 研究とのかかわり

仲間と共に学び合う宮の子の育成
～受け止め、考え、伝え合う力をつけるために～

<研究内容1> 自らの考えを明らかにするための支援のあり方

～「わかった」「はなしたい」「かきたい」という姿をめざして～

この単元では、「自分の考え」とは「自分で読み取ってわかったこと」と捉えたい。説明されている事柄を正確に読み取って、「話題・問題提起 問題に対する説明(しごと・つくり)」という説明の仕方ができるように、本文に色を分けて、線を引いたり、ワークシートに書き込んだり時間を十分確保する。

<研究内容2> 伝え合う場の設定のあり方

～「せつめいができた」「きいてもらいたい」「もっとせつめいしたい」という姿をめざして～

「おはなしじま」(スクランブルでのペア学習)という学習形態を使って、話し手、聞き手の役割に分かれ、話形を使って説明することに慣れるようにする。

7 本時の授業展開

(1) 本時のねらい

トラックの「しごと」と「つくり」を、音読、本文に線を引く、ワークシートに記入する、見つけたことを話すという学習活動を通して、正しく読み取ることができる。

(2) 本時の学習展開 (本時 3 / 8)

	学習活動	評価について	指導・援助
--	------	--------	-------

<p>つかむ</p> <p>ひとりよみ</p> <p>20分</p> <p>/</p> <p>交流する</p> <p>20分</p> <p>振り返る</p> <p>5分</p>	<p>1 本文を音読する。</p> <p>2 本時の課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>トラックの「しごと」と「つくり」をみつけよう。</p> </div> <p>3 一人読みをして、「しごと」と「つくり」をまとめる。</p> <p>・「しごと」と「つくり」がかいてあるところに線を引く。(しごと 青線 つくり 赤線)</p> <p>4 「しごと」「つくり」を発表して確認する。</p> <p>5 「しごと」「つくり」からわかったことを「トラックじまん」として、ワークシートに書く。(10分)</p> <p>・ぼくの、にだいはとってもひろくて、じょうぶだよ。だから、木をはこぶしごとができるよ。</p> <p>・ぼくは、タイヤがたくさんついているよ。おもいにもつもだいじょうぶだよ。</p> <p>6 「おはなしじま」で、「トラックじまん」のペア交流をする。(前半、後半 各5分)</p> <p>7 全体交流をする。(5分)</p> <p>・木をはこぶしごとをしているから、ひろいにだいがついているということがわかったよ。</p> <p>・石みたいな重い荷物をつむからいっぱいタイヤがついていることがわかったよ。</p> <p>・さんのせつめいは、つくりのことがわかりやすかったよ。</p> <p>8 今日の学習を振り返る。</p> <p>・課題についてまとめる。</p> <p>・教師の評価を聞く。</p>	<p>・「しごと」と「つくり」の書いてあるところを見つけ、線を引いたり、書き込んだりすることができる。</p> <p>・「しごと」と「つくり」をもとにして「トラックのじまんばなし」が記入できる。</p> <p><話し手></p> <p>トラックのペンダント</p> <p>・トラックになって、「しごと」と「つくり」の説明が進んでできる。</p> <p><聞き手></p> <p>・「しごと」や「つくり」の説明がわかりやすい子を見つけながら聞く。</p> <p>・自分や友だちのがんばりを振り返ることができる。</p>	<p>・前時までの学習内容を思い出させて、本時の課題につなげる。</p> <p>・トラックの「しごと」「つくり」がイメージできるように絵や写真を準備する。</p> <p>・文章をもとにして読み取ることができるように本文を載せたプリントを準備する。</p> <p>・線が引けた子に教師が丸のうち、グループのミニ先生として、教え合いをさせる。</p> <p>・Cの児童には、「つくり」「しごと」をいれた話ができるようなワークシートを用意する。Aの児童には自分の知っていることも書くように励ます。</p> <p>・「おはなしじま」の交流の約束やめあてを確認する。</p> <p>・意欲的に交流できるように評価カードを用意する。</p> <p>・トラックになって、話ができるように、トラックの絵のかいてあるペンダントを用意する。</p> <p>・発言の様子、聞き方、交流、書き込みの様子から評価する。</p>
--	---	--	--